

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2190100012
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社
事業所名	すずらん
訪問調査日	平成 19年5月30日
評価確定日	平成 19年7月31日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 2190100012
法人名	メディカル・ケア・サービス(株)
事業所名	グループホーム すずらん
所在地	岐阜市中西郷1-17-1 (電話) 058-234-3560

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110		
訪問調査日	平成19年5月30日	評価確定日	平成19年7月31日

【情報提供票より】(19年 5月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 8 月 1 日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	14 人	常勤	14 人	非常勤	人	常勤換算	14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	41,500 円	
敷金	有() 円	() 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (120,000 円)	有りの場合 償却の有無	有() 無()	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,050 円			

(4) 利用者の概要(5月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢 平均	85 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	谷村クリニック	あずま歯科
---------	---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人内のネットワーク化、法人は管理者や職員を段階に応じて育成するための年間研修計画を立て、法人内の研修を受ける機会の確保、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。ホーム独自の「気配り、目配り、心配り、一人ひとりの人格を尊重し楽しい毎日が過せるように努めます」を理念に掲げ、今までの生活をそのまま延長できるように、花の好きな利用者には花を育て、居室を花で一杯に飾り、毎日の暮らしの中で散歩や買い物、玄関掃除、食事の準備、食器拭き、後片付けなど利用者一人ひとりを把握し共に喜び楽しむ支援を行なっている。また、昨年夏より法人代表が変わり、職員の戸惑いがあったが、利用者一人ひとり自由で楽しく、人生の最後を迎えられるよう安心して任せられるグループホームづくりに努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人代表の交代により運営体制の変更があった。組織にはレベルに応じて受けられる研修計画が出来ており、職員のフォローアップが行なわれる予定である。自治会の入会により、地域の方々と交流を図り、認知症の理解を得る為、運営推進会議などで働きかけたが、まだ理解に至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人代表者、管理者は自己評価の実施する意義を良く理解し、気付きの機会であると捉えている。改善シートに記入し、職員にも意見を求め、具体的改善に結びつけるようサービスの向上に前向きである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に1回の運営推進会議の開催により、ホームの行事等の報告や関係者との交流により、理解や連携が深められたが、行政関係者の参加には至っていない。ホームや行政の考え方や運営・サービスについて、現場や利用者の問題解決のために会議を通して、よく知ってもらい、情報を共有して意義ある運営推進会議にしていこうとしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者は月に1回発行するホーム便りや手紙や写真を送付し、ホームへの訪問時には必ず声を掛け、様子を知らせるなど意見を聞いたり、苦情が言いやすい雰囲気作り心がけている。遠隔地の家族には便りに近況を書いて、意見を求めたりしている。玄関には苦情箱の設置があり、契約時には意見・苦情窓口や受付機関を説明し、ホーム以外の相談窓口を明示している。また、法人は年に2回家族アンケートを行いその結果を運営に反映させる計画がある</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会への加入を希望しているが、現在では受け入れられていない為、地域の行事や活動に参加することができない。日常的に散歩や買い物などに出かけ、隣近所の人と気軽に声を掛け合ったり、会話をしているが地域の人々と交流する機会がない。隣設する福祉施設とは防災訓練など行事を通しての交流がある。管理者は、地域の一人として自治会活動に利用者と共に積極的に参加する方向で取り組もうとしている</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の人々とのふれ合いを大切にします」という、地域密着型の役割を念頭におき、地域生活の継続を支えるための支援を法人の理念として掲げ、地域に根ざしたホームを目指している。	○	平成18年度から地域密着型サービスになり、運営基準等関係法令の改正に伴い、運営規定等書類の見直しが望まれる。また、地域密着型サービスとして理念が地域にどのように反映されるか更に検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は常に目に止まりやすい玄関、事務所、居間に掲示し、日々の利用者に関わるケアに際し、振り返ったり、ミーティングや申し送りなどで確認し共有化を図っている。更に、理念を具体化していくことを意識していくように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物で出会った近所の人達と、気軽に挨拶できる関係はある。地域の祭りにはみこしが施設内まで来たり隣設する福祉施設と行事を通して交流をしている。	○	地域住民として行事や活動にどのような関わりができるか、地域の行事に参加するのみに留まらず、ホームで培った成果を地域の高齢者のケアサービスの推進に還元していく積極的な取り組みや暮らしに活かせるような取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者・職員で話し合いを持ち評価を行い、気付きの機会であると捉え、前年度の外部評価に対して、改善シートに記入し職員全員で改善に向けて話し合いが行なわれている。	○	更なる改善に向けての具体的な取り組みが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催しているが、行政の参加がない。地域の人や民生委員、利用者・家族の参加により、家族同士の交流や現状報告、情報交換が行なわれた。管理者は会議の持ち方を今後の課題とし、自治会の理解が得られるよう取り組んでいる。また、運営推進会議で出された課題は、職員会議で検討しサービスの向上に活かそうとしている。	○	運営推進会議では、単なる報告や情報交換にとどまらず、話し合いを通じて参加者からの率直な意見をもらい、ホームのサービス向上につなげていけるような取り組みを希望する。地域密着型サービスが、地域を支え、支えられる関係の構築を期待する。また、運営推進会議が2ヶ月に1回以上開催できることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護福祉課の担当者とは質問や相談をしたり情報交換は行なっているが、サービスの課題解決に向けての連携に至っていない。	○	現場や利用者の問題解決のためには、運営推進会議を通して、考え方や実態を市の担当者や包括支援センターによく知ってもらい、情報が共有できる積極的な取り組みを希望する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時には声を掛け、利用者の状態の報告をしている。また、1ヶ月に1回お便りや写真・金銭出納帳の写しなどを送付する際、利用者ひとり一人の暮らしぶりや様子を家族に報告している。暮らしぶりを兄弟に送るなどホームからの便りを楽しみにしている家族もある。	○	職員の移動、勤務交替などの報告が、さらなる家族との信頼関係の構築となることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に必ず声を掛け意見・要望などを聞くように心がけている。また、運営推進会議で出た家族の意見は職員会議で検討している。法人からは、年に2回家族アンケートを行い運営に反映させる計画がある。	○	玄関に苦情箱の設置はあるが、家族同士の集まりの場で、意見など気軽に言える雰囲気作りや家族から得られた意見やアンケートの結果などを、サービスに反映させていく取り組みが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の確保はされているが、緊急時のために、利用者全員のことを知っておきたい意向から、ユニット間の移動が日勤の勤務帯で行なわれている。	○	利用者と職員との馴染みの関係の必要性、認知症高齢者の理解を深め、異動を最小限にする取り組みをさらに期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は行なわれているが、職員を段階に応じて育成する為の研修や勉強会がなされていない。法人代表が変わり、法人本部にはスーパーバイザーの意見やアドバイスが受けられる、今後の研修計画が立てられている。	○	法人内外の研修を受ける機会や確保をするために、研修計画を立て、限られた職員体制の中で、実務に支障を来さないよう積極的な取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の同業者ネットワークに加入し交流や連携に努め、サービスの向上を目指している。	○	今後もさらに他の同業者職員と交流を持ち、お互いに勉強や意見交換を通して悩みの解消を図ったり、同業者同士協働しながら地域のグループホームの質の向上に繋げることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は利用者が安心してサービスを利用できるように、入所前は利用者の背景や家庭環境など事前情報の把握に努めている。また、本人・家族が見学して他の利用者や職員と顔合わせし、その場の雰囲気に徐々に馴染みながら利用に繋げている。入院や他施設に入所の方は、管理者が出向いて様子や希望等を確認している。	○	今後さらに、家族と十分に話し合いながら、本人と家族等に合った調整をし、本人の安心と納得を大切にしたい支援が期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩であるという考えを共有しており、利用者と一緒に過ごしながらか日々の生活の中で教えられ、共に支えあう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉や言動、表情から思いや暮らし方の希望を把握し、利用者本位に過せるよう職員で話し合い提供できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員を決め、全体会議のカンファレンスで職員の気付きや意見を取り入れた介護計画を作成している。家族の訪問時や電話などで、意見や要望を聞いている。家族と一緒に訪問された利用者の友達に意見や気付きを聞いて介護計画に取り入れたこともある。	○	地域でその人らしく暮らし続けるための利用者ひとり一人に合った具体的な個別介護計画の作成を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと変化が生じた場合の見直しは行なわれているが、モニタリング、評価の記録がない。日々の記録で実施されたことは細かく記載されているが、身近で支えた職員しか知り得ない事実やケアの気付きができるような具体的な記載がない。	○	モニタリング、評価の記録の工夫を検討し、介護計画は期間にとらわれず、毎月新鮮な目で利用者や家族、関係者から最新の情報や気付きを最大限反映させながら介護計画を変更していくことを期待する。また、日々の記録を根拠にして介護計画の見直しに活かせるような記録の検討も期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて医療機関の受診などの送迎支援を行なっている。また、法人は今後デイサービス、ショートステイなど利用できるようグループホームの多機能性を活かしていく意向をもっている。	○	近隣も高齢者が、状況に応じて必要なサービスを馴染みの環境で受けられるように、グループホームの多機能性を活かすことを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関の受診や協力医の往診が月2回ある。また、認知症の専門医の受診、治療が受けられる支援がある。協力医に相談したり情報のやり取りを通して連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族と相談する機会を設け、かかりつけ医と連携を取りながら終末期のあり方を検討している。また、法人では、ターミナルケアを取り組みたい意向がある。	○	利用者や家族の意向を踏まえ、家族、医師、職員が連携を取り、安心と納得が得られるような終末期ケアをチームで支援していく取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや関わりかたに心掛けている。個人情報やプライバシーの確保には日々のミーティングなどで確認し合っている。	○	全体会議や勉強会などで利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図り、職員の意識向上の取り組みを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのスケジュールは無く、朝寝坊する人、夜更かしする人、趣味を楽しむ人、散歩や喫茶店に出かける人、居室で一人になりたい人など利用者一人ひとりその人のペースで暮らしている。職員は常に利用者の希望に沿った暮らしを重要視して利用者に合わせていく姿勢がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望、買い物、調理、後片付けなど、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にこなしている。また、家庭菜園で作った新鮮な野菜や誕生日には好きなメニューを取り入れている。食事中は食事に集中できるようにテレビを消し、職員と利用者が会話しながらひとり一人のペースで楽しみながら食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂の好きな人、長湯の好きな人、個浴の人、気の合った人同士で入浴するなど、利用者の希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。日中であれば毎日入浴することができる。	○	利用者の習慣や希望に合わせて夕方や夜の入浴も楽しむことができるよう検討することを希望する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵を描く人、家庭菜園で花作りの好きな人、縫い物ができる人、喫茶店へ行く人、水やり、草取り、掃除など一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごとの支援をしている。また、タバコやウイスキーを楽しむ人への支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出好きな利用者が多いことから、天気の良い日は毎日のように誰かが散歩に出かけたり、喫茶店へ行くなど日常的に外出できるよう個別の支援をしている。また、五感を刺激する機会ととらえ、行事として家族と過ごす時間や季節を楽しむ遠出の外出の支援計画がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は利用者が自由に出入りできるよう鍵をかけないケアの取り組みをしている。玄関から出た利用者を居間から見守り、散歩に付き添うなど解放的な暮らしをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回利用者と共に避難訓練を行い、消防署の指導も受けている。近隣の養護施設と連携体制が出来ているが、地域住民の理解が得られず協力体制がない。	○	運営推進会議などを利用して、地域住民の理解や協力が得られるよう積極的な働きかけと連携体制を早急に築いていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとり一人の毎日の食事摂取量、1日の水分量、排泄チェックをし、栄養状態の把握をしている。法人の栄養士が作成したカロリー表を参考に栄養バランスを配慮している。	○	定期的に栄養の専門的な観点から、献立表のチェックをしてもらえるような取り組みを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、洗面所、トイレなどに季節の花が飾られ、廊下、台所など清潔で不快な臭い、音も全く気にならない。生活感や季節感を取り入れながら居心地よく過ごせる配慮や工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花が大好きで居室中を好きな色の花で飾り、育てることの好きな人は居室で植木を育て、趣味の物を持ち込んでいる人、家族の写真、利用者の馴染みの家具など家族の協力を得ながらその人らしく居心地の良い居室作りに取り組んでいる。		